

衛研第1-47号
平成28年 2月17日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 28 年 第 6 週（平成 28 年 2 月 8 日～平成 28 年 2 月 14 日）

今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類から三類感染症（二類：結核を除く）の届出はなかった。四類感染症は、デング熱 1 人の届出があった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3 人、急性脳炎 1 人、梅毒 1 人、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**インフルエンザ**(47.52 49.13)の定点当たり報告数は、前週よりわずかに増加し、多い状況が続いている。保健所別では、越谷市(64.00)、草加(63.12)、幸手(58.07)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、全体の 57.2%を占めた 10 歳未満の中で 6 歳が最も多い。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(3.06 3.04)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まった。保健所別では、坂戸(2.33 4.00)保健所管内で大きく増加し、東松山(5.80)、川口(5.47)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、6 歳が最も多い。**流行性耳下腺炎**(0.94 0.86)は、前週より減少したが、前年までの同時期より報告数の多い状況が続いている。保健所別では、東松山(2.60)、坂戸(2.17)保健所管内からの報告が多い。**感染性胃腸炎**(8.75 7.46)の定点当たり報告数は、前週より減少したが、いまだ報告数は 1,000 人を超えている。保健所別では、熊谷(18.11)、東松山(11.20)保健所管内で多い状況が続いている。眼科定点対象疾患では、**流行性角結膜炎** 17 人の報告があった。基幹定点報告対象疾患では、**マイコプラズマ肺炎** 4 人、**クラミジア肺炎** 3 人、**インフルエンザ(入院)** 24 人(前週 29 人)の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし（結核を除く）	
三類感染症	報告なし	
四類感染症	デング熱	1 人（推定感染地域 国外）
五類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3 人（菌種 <i>Citrobacter</i> sp.1 人、 <i>Enterobacter</i> sp.1 人、 <i>Klebsiella</i> sp.1 人）
	急性脳炎	1 人（病原体 インフルエンザウイルス A）
	梅毒	1 人（病型 早期顕症 期）
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 人

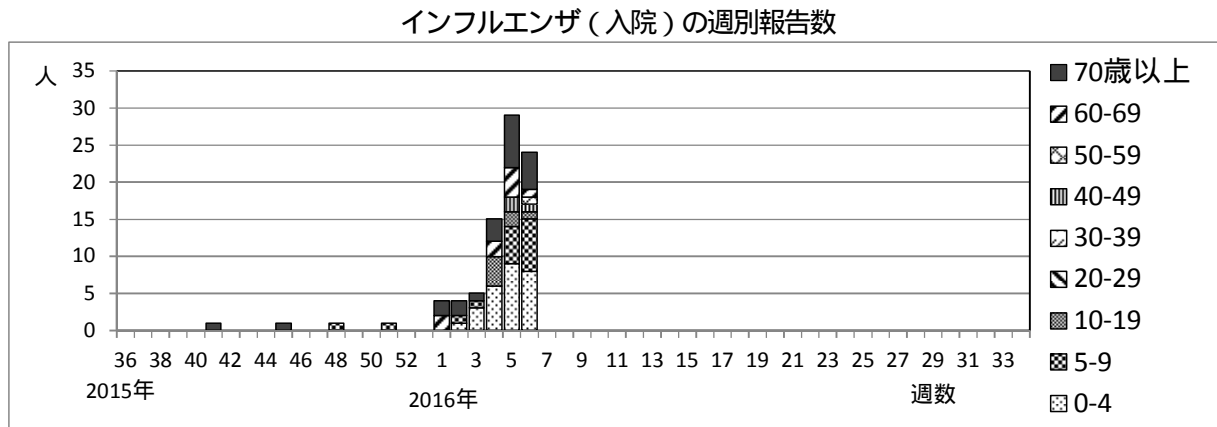
～感染症情報センターからのお知らせ～

感染症法施行令の一部改正により、平成 28 年 2 月 15 日から全数把握対象疾患の四類感染症に「ジカウイルス感染症」が追加されました。

- この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。
衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>
- 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

- インフルエンザ（入院）基幹定点 -

第6週は基幹定点（10 医療機関）のうち9カ所から24人の報告があった。年齢階級別では、0～4歳が8人、5～9歳が7人、70歳以上が5人の順であった。



—インフルエンザウイルス検出状況—

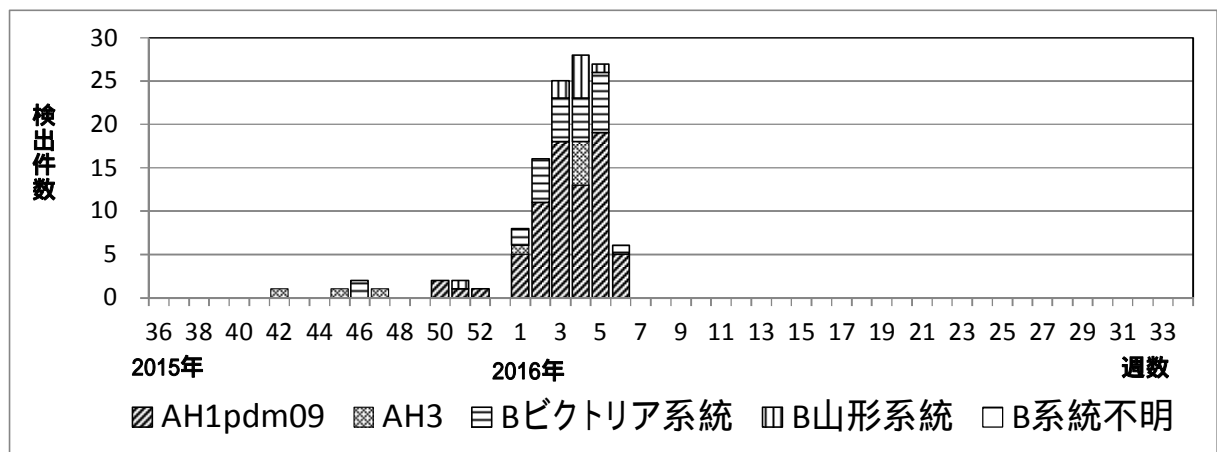
さいたま市(8人)、川口(4人)、鴻巣(4人)、熊谷(3人)、狭山(3人)、春日部(2人)、幸手(1人)、越谷市(1人)保健所管内で採取された検体から、今週新たにAH1pdm09が17件、A香港が2件、B型が8件検出された。9月(36週)以降の検出は、AH1pdm09が75件、A香港が9件、B型が36件の計120件となった。

年齢階級別インフルエンザウイルス検出状況

2015年36週から		年齢階級								計
		0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
AH1pdm09	今週検出分	10	1	1	1	1	1	1	1	17 *
	累積	52	5	1	6	5	1	3	2	75
AH3(A香港)	今週検出分		1						1	2
	累積		3	-	-	-	-	-	1	9
B型	今週検出分	3	2	2	1					8 *
	累積	17	12	3	3	-	-	-	1	36

* AH1pdm09とB型が重複して検出された1例を含む

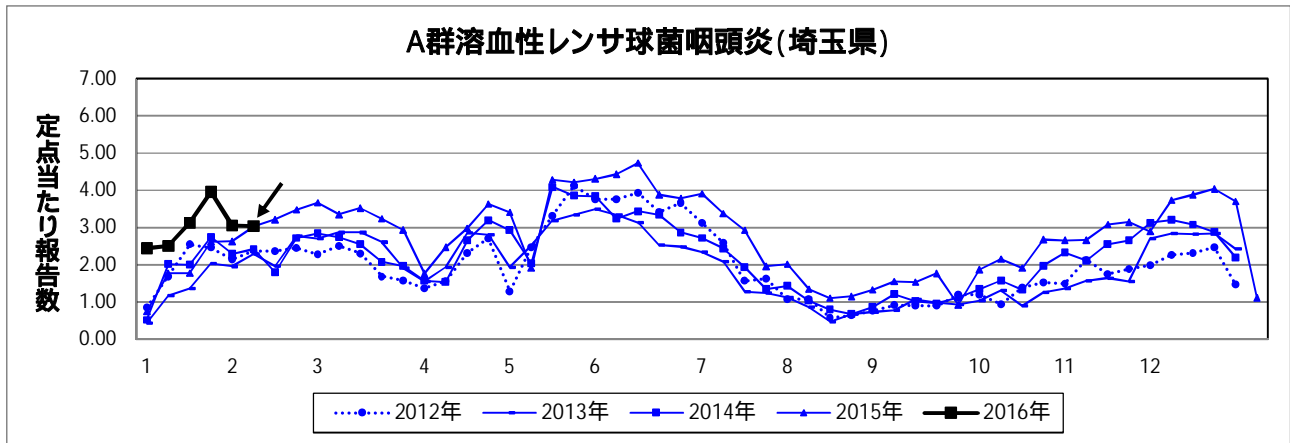
検体の採取週別インフルエンザウイルス検出状況



< 定点把握対象疾患の患者情報 >

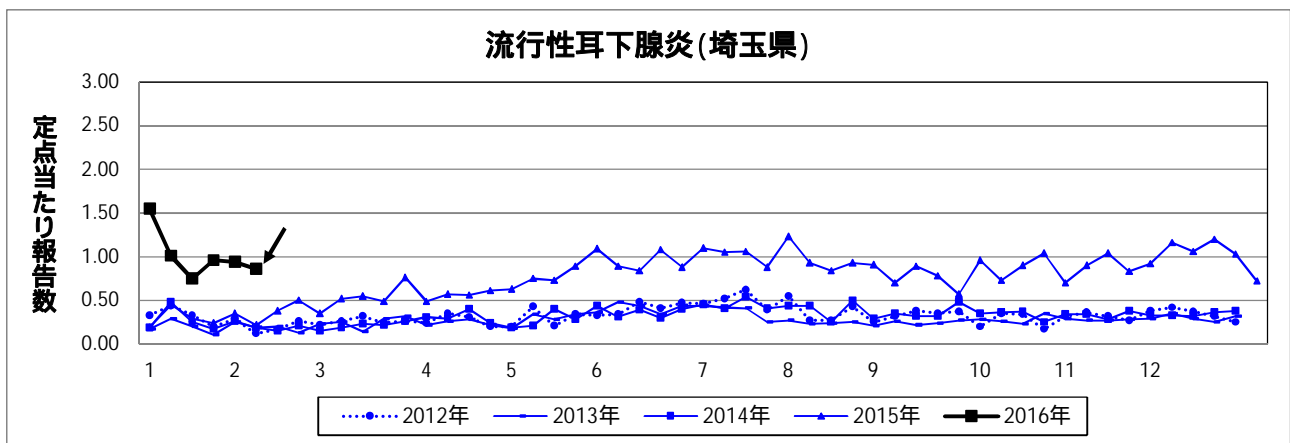
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

県内全保健所から報告があった。保健所別では、東松山(5.80)、川口(5.47)保健所管内からの報告が多い。



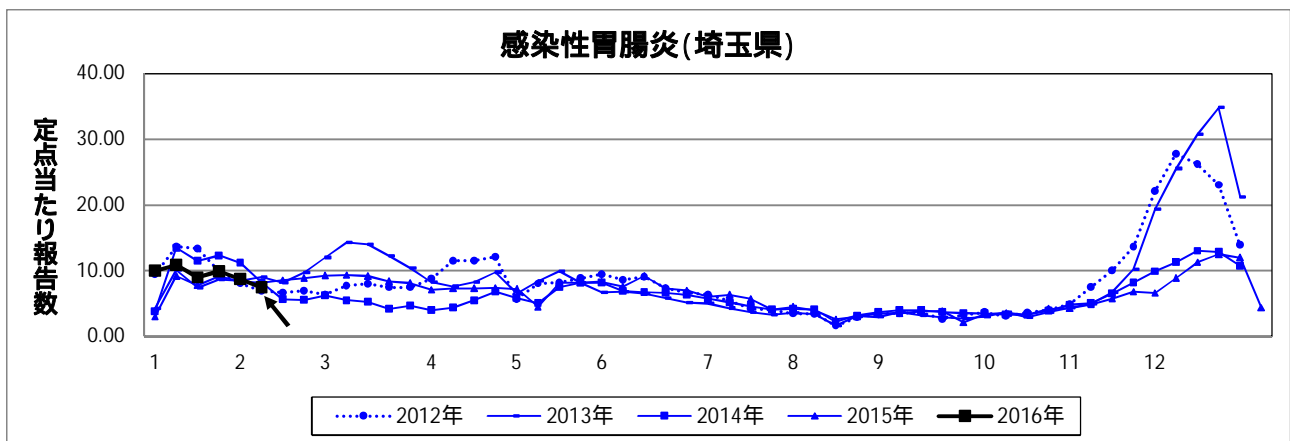
流行性耳下腺炎

秩父、本庄、川越市保健所を除く県内 13 保健所から報告があった。保健所別では、東松山(2.60)、坂戸(2.17)保健所管内からの報告が多い。



感染性胃腸炎

県内全保健所から報告があった。保健所別では、熊谷(18.11)、東松山(11.20)保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第6週)

(2016年2月16日 15:00集計)

	今週 届出	累計	2015年 累計		今週 届出	累計	2015年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ペスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1267	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ				腸チフス		1	1
細菌性赤痢			6	パラチフス			1
腸管出血性大腸菌感染症		1	167				
四類感染症							
E型肝炎		5	7	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)			
ウエストナイル熱				ニパウイルス感染症			
A型肝炎			16	日本紅斑熱			
エキノコックス症				日本脳炎			
黄熱				ハンタウイルス肺症候群			
オウム病			1	Bウイルス病			
オムスク出血熱				鼻疽			
回帰熱				ブルセラ症			
キャサナル森林病				ベネズエラウマ脳炎			
Q熱				ヘンドラウイルス感染症			
狂犬病				発しんチフス			
コクシジオイデス症				ポツリヌス症			
サル痘				マラリア			1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱			1	レジオネラ症		7	90
つつが虫病				レプトスピラ症			
デング熱	1	3	13	ロッキー山紅斑熱			
東部ウマ脳炎							
五類感染症							
アメーバ赤痢		8	30	侵襲性肺炎球菌感染症		13	85
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		1	6	水痘*		2	10
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	5	40	先天性風しん症候群			
急性脳炎	1	7	28	梅毒	1	12	103
クリプトスポリジウム症				播種性クリプトコックス症		1	7
クロイツフェルト・ヤコブ病		1	10	破傷風			2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		4	12	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
後天性免疫不全症候群		5	35	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1	9
ジアルジア症			4	風しん			8
侵襲性インフルエンザ菌感染症			14	麻しん			2
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	2	1
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計		1		

累計は診断日で集計
* 2015年累計は暫定値です。
* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

結核届出状況(1月分)

1月の届出数は、患者59人、感染症死亡者の死体1人、疑似症患者1人、無症状病原体保有者47人の計108人で、前月の116人より減少したが、前年同月の95人より多い。

表1 診断月別の届出数の推移(2015年1月～2016年1月)

	2015年												2016年	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	累計*
総計	95	85	118	95	98	133	116	121	99	111	80	116	108	108
年齢階級														
10歳未満	4	1	3	5	1	2	6	0	1	3	1	7	2	2
10歳代	0	1	2	2	3	4	1	10	0	1	0	1	1	1
20歳代	6	8	9	5	11	15	9	5	10	13	4	8	3	3
30歳代	13	15	12	11	5	14	11	9	9	11	5	16	6	6
40歳代	8	8	12	18	9	19	11	15	11	8	11	6	11	11
50歳代	5	9	10	5	6	8	10	23	11	9	13	13	12	12
60歳代	16	13	22	16	21	13	17	12	21	16	13	17	21	21
70歳代	17	10	29	11	20	25	26	17	23	18	15	26	27	27
80歳代以上	26	20	19	22	22	33	25	30	13	32	18	22	25	25
性														
男	57	43	76	52	59	84	68	67	64	73	43	61	59	59
女	38	42	42	43	39	49	48	54	35	38	37	55	49	49
類型														
患者	77	52	83	62	75	97	81	82	57	85	63	84	59	59
感染症死亡者の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
疑似症患者	0	1	0	2	3	2	1	0	2	0	0	0	1	1
無症状病原体保有者	18	32	35	31	20	34	34	39	39	26	17	32	47	47
病型														
肺結核	57	41	54	40	55	74	65	63	44	63	48	56	37	37
肺結核及びその他の結核	2	2	4	9	5	3	2	3	3	7	4	5	6	6
その他の結核	18	9	25	13	15	20	14	16	11	15	11	23	17	17
疑似症患者	0	1	0	2	3	2	1	0	2	0	0	0	1	1
無症状病原体保有者	18	32	35	31	20	34	34	39	39	26	17	32	47	47

*:2016年1月からの累積届出数

*:2015年の届出数は暫定値

1月に診断された108人を年齢階級別にみると、肺結核では80歳以上の12人、無症状病原体保有者では70歳代の12人が最も多い。

表2 年齢階級別病型別の届出数(2016年1月分)

	病 型					総計
	肺結核	肺結核及び その他の結核	その他の結 核	疑似症患者	無症状病原 体保有者	
総計	37	6	17	1	47	108
年齢階級						
10歳未満	0	0	0	0	2	2
10歳代	0	0	0	0	1	1
20歳代	3	0	0	0	0	3
30歳代	1	1	0	0	4	6
40歳代	2	0	2	0	7	11
50歳代	5	1	1	0	5	12
60歳代	7	0	2	1	11	21
70歳代	7	0	8	0	12	27
80歳代以上	12	4	4	0	5	25

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第6週 平成28年2月8日～平成28年2月14日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ #1	12,332	30	149	513	498	609	886	929	1,017	926	843	656	1,726	385	476	924	858	430	277	146	54
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
RSウイルス感染症	23	6	4	8	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	31	-	4	8	2	3	4	2	4	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	484	1	1	8	28	16	48	59	76	55	45	47	74	7	19	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,186	10	66	129	93	108	112	98	75	49	59	44	140	34	169	-	-	-	-	-	-
水痘	73	2	3	3	3	5	17	12	11	10	1	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	6	-	-	2	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	71	-	1	5	4	5	12	9	10	6	5	7	5	-	2	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	59	-	21	31	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	137	-	-	3	2	11	14	23	13	22	14	14	14	4	3	-	-	-	-	-	-
合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	17	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	1	3	3	3	1	2	-
合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎 #3	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	24	2	6	7	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	5

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第 4週

(1月25日～1月31日)

平成28年2月17日

インフルエンザの定点当たり報告数は第49週以降増加が続いている。都道府県別の上位3位は新潟県(39.44)、沖縄県(34.29)、福岡県(31.88)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は739例と前週と比較して増加した。都道府県別では46都道府県から報告があり、年齢別では0歳(50例)、1～9歳(272例)、10代(44例)、20代(12例)、30代(17例)、40代(26例)、50代(34例)、60代(71例)、70代(93例)、80歳以上(120例)であった。

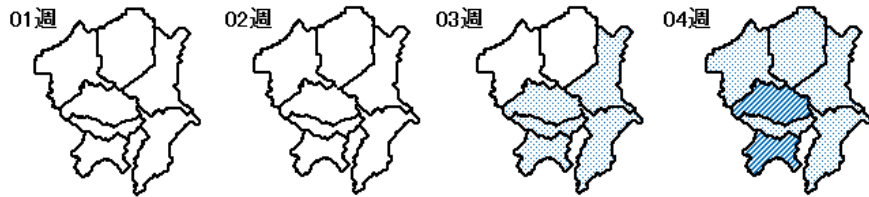
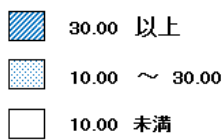
RSウイルス感染症の報告数は1,941例と3週連続で減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約73%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は島根県(1.70)、石川県(1.52)、香川県(1.32)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第1週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(8.87)、鳥取県(8.37)、静岡県(7.19)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は熊本県(13.92)、愛媛県(12.65)、山形県(12.13)である。水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福岡県(0.65)、佐賀県(0.65)、千葉県(0.57)、東京都(0.54)である。手足口病の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は山口県(0.25)、滋賀県(0.19)、長崎県(0.18)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で減少したが、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は秋田県(3.49)、山形県(2.40)、和歌山県(2.26)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は佐賀県(4.52)、石川県(4.21)、沖縄県(3.03)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位2位は岐阜県(1.40)、鳥取県(1.40)、福岡県(1.40)、奈良県(1.17)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は第1週以降増加が続いている。28道府県から129例報告があり、年齢別では0歳(18例)、1～4歳(86例)、5～9歳(19例)、10代(1例)、30代(2例)、40代(1例)、50代(2例)であった。

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、神奈川県(31.64)、埼玉県(30.30)で警報開始基準値30.00を超えた。

インフルエンザ



平成28年 04週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	111,738	42,054	3,208	1,542	1,951	7,605	6,240	10,782	10,726
	定点当たり	22.57	27.87	26.73	20.29	20.76	30.30	29.16	25.98	31.64
RSウイルス感染症	報告数	1,941	329	16	12	17	58	43	127	56
	定点当たり	0.61	0.35	0.21	0.25	0.30	0.36	0.32	0.49	0.26
咽頭結膜熱	報告数	1,281	235	22	4	22	55	27	48	57
	定点当たり	0.41	0.25	0.29	0.08	0.39	0.34	0.20	0.18	0.27
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	10,595	3,122	191	122	250	634	506	861	558
	定点当たり	3.36	3.30	2.55	2.54	4.39	3.96	3.78	3.30	2.63
感染性胃腸炎	報告数	24,515	8,193	669	322	419	1,591	1,066	2,307	1,819
	定点当たり	7.77	8.65	8.92	6.71	7.35	9.94	7.96	8.84	8.58
水痘	報告数	1,222	462	28	9	22	81	76	141	105
	定点当たり	0.39	0.49	0.37	0.19	0.39	0.51	0.57	0.54	0.50
手足口病	報告数	168	49	4	5	1	9	6	19	5
	定点当たり	0.05	0.05	0.05	0.10	0.02	0.06	0.04	0.07	0.02
伝染性紅斑	報告数	2,396	503	45	46	28	134	95	109	46
	定点当たり	0.76	0.53	0.60	0.96	0.49	0.84	0.71	0.42	0.22
突発性発しん	報告数	1,208	378	17	23	30	73	41	104	90
	定点当たり	0.38	0.40	0.23	0.48	0.53	0.46	0.31	0.40	0.42
百日咳	報告数	35	6	1	-	1	1	1	2	-
	定点当たり	0.01	0.01	0.01	-	0.02	0.01	0.01	0.01	-
ヘルパンギーナ	報告数	43	7	2	-	2	1	1	-	1
	定点当たり	0.01	0.01	0.03	-	0.04	0.01	0.01	-	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	2,698	666	64	21	18	153	137	142	131
	定点当たり	0.85	0.70	0.85	0.44	0.32	0.96	1.02	0.54	0.62
急性出血性結膜炎	報告数	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	報告数	464	148	17	9	5	18	19	27	53
	定点当たり	0.68	0.73	1.00	0.75	0.36	0.44	0.58	0.69	1.15
細菌性髄膜炎 #2	報告数	6	1	-	-	-	-	-	1	-
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	-	-	0.04	-
無菌性髄膜炎	報告数	19	1	-	1	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.04	-	-	0.14	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	247	41	7	5	7	1	6	13	2
	定点当たり	0.52	0.51	0.54	0.71	0.88	0.10	0.67	0.52	0.22
クラミジア肺炎 #3	報告数	10	2	-	1	-	-	-	1	-
	定点当たり	0.02	0.02	-	0.14	-	-	-	0.04	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	129	6	-	-	3	-	1	-	2
	定点当たり	0.27	0.07	-	-	0.38	-	0.11	-	0.22

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

総合トップ

くらし・環境

健康・福祉

しごと・産業

文化・教育

県政情報・統計

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2016年 > 感染症の流行状況 2016年 第6週

感染症発生動向調査 2016年

- [感染症の流行状況 2016年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2016年 第5週](#)

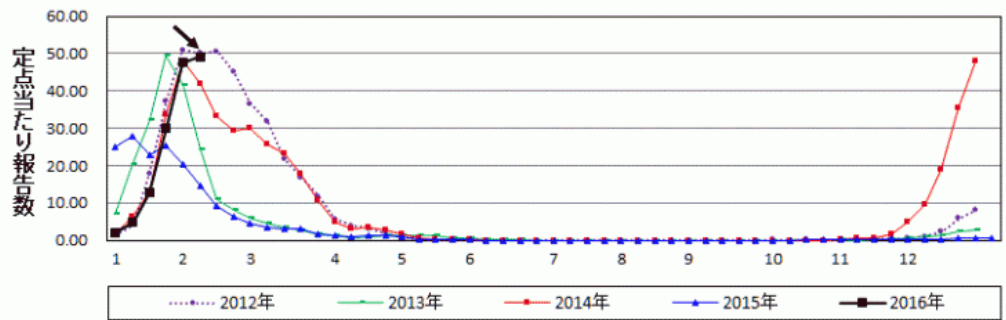
感染症の流行状況 2016年 第6週

2016年第6週 (平成28年2月8日～2月14日) の要点 平成28年2月17日

インフルエンザの定点当たり報告数は、前週と比較しわずかに増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)

インフルエンザ(埼玉県)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	→	★★★	伝染性紅斑	↓	★★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	↓	★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★★	ヘルパンギーナ	→	★
感染性胃腸炎	↓	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓	★★
水痘(みずぼうそう)	→	★★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	→	★	流行性角結膜炎	→	★★

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 *2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)をご覧ください。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン